

因みに、本校「漢文」授業担当嘱託教師長尾雨山は『国華』第七号（明治二十三年四月）にこの博覧会に関する論説を発表している。その中で彼はこの博覧会が前二回の内国勸業博覧会と比べて(1)悉く出品を鑑別し、努めて悪作庸製を排却しようとしたこと、(2)流派別に出品および審査する方法を撤廃したこと、(3)画面の大きさの規定と粗密二様の画を出品すべしという規定、および製作に装飾を加えてはならないという規定などを撤廃したこと、という三点において大きく進歩したと述べている。ただし、欠点もあるとし、それは(1)会場が狭く観賞に不向きであること、(2)壁面を覆う布の紺紫色が観賞を妨げるばかりでなく、足りない部分を有紋の粗布で補っていることがいかにも殺風景であること、(3)展列の順序に配慮が不足していること、(4)作品はなお厳選を要することであるとしている。雨山が進歩した点としてあげているのは、いずれもフェノロサや岡倉が以前から批判していた点であった。この博覧会においては漸く彼らの主張が生かされたものと見える。

なお、雨山は続けて作品評も試み、秀作として橋本雅邦の白雲紅葉の図（「白雲紅樹」）、川端玉章の墨江春早の図（「墨堤春曉」）、荒木寛敏の孔雀の図、岸竹堂の群虎の図、巨勢小石の秋原鹿鳴の図（「秋野鹿」）、野村文筆の春夜、秋山の二図、竹内久一の神武天皇御像、山田鬼斎の護良親王の像、岡崎雪声の雲龍文銅製門扉その他をとり上げている。雅邦と玉章の作についてのくだりを左に掲げる。

氣象雄大最モ驚クヘキハ橋本川端二氏ノ畫ニシテ滿山ノ紅葉霜ニ飽キ白雲秋錦ヲ掩護シ來リテ杜牧停車ノ吟賞ヲ待ツカカシ老柏崖

ニ垂レ遠近ノ林巒暮烟蒼然トシテ至リ半林ノ斜陽猶ホ殘照ヲ逗メ風來ルニ非スシテ一二紅葉ノ溪水ニ流點シ哀猿燭叫ヒテ何ノ處ニ楚客ノ斷腸スルモノアルカ深山幽絶ノ境狀筆端ニ描出シテ觀者ヲシテ人間亦猶ホ此仙寰隱ルヘキアルカ無心ノ山公ヲ一呼シ一路ノ由ル所ヲ問ハント欲スルノ想アラシム其着色中濃淡アリ遠近アリ筆墨ノ雄厚奇傑狩野ノ門徑ヲ一躍シテ宋人ノ長處ヲ參シ出スニ自家ノ新機軸ヲ以テス明治美術ノ進境ヲ見ルヘキモノ前ニ未タ此幅ノ如キヲ見サルナリ 川端氏ハ圓山ノ蘊籍淹潤ヲ以テ筆力ノ沈厚ヲ加ヘ遠近濃淡姿態風趣宛轉關生シ以テ一幅ノ墨江春早ノ圖トナセリ看來レハ夜來微雨収マリテ花腮露ヲ帯ヒ一梢猶ホ朝陽ヲ迎ヘテ笑ハントスルカ如ク雙尖峯ノ遙黛ハ青一點ノ螺髻ヲ洗ヒ來リテ半面ヲ遠林ノ端ニ出シ仙女ノ嬌差袖ヲ掩フノ情致ヲ寄セ一篙ノ新漲間鷗兩三拍拍機ヲ忘レ端ナク當年中郎ノ詠ヲ想ハシム實景ノ畫ハ最モ人ノ難シトスル所ナリ而シテ能ク此風趣ヲ巨幅中ニ曲盡シテ橋本氏ト俱ニ場中ニ雄視スルハ大ニ會場ヲ壯ニスルノ觀アリ

⑨ 墨田川盃流しの宴

明治二十三年八月二十一日、校長心得岡倉覚三はシカゴ、コロンプス世界博覧会（同二十六年）参同の気運を盛り上げるために、向島の料亭八百松で集会を開き、趣向として墨田川盃流しの宴を催した。主客として米国人ガワードが招かれたが、彼は『臨時博覧会事務局報告』（明治二十八年五月、同事務局）に

「明治二十三年六月米人グース、タヴス、ガワード（元東京駐節

米國公使館書記官）本邦に渡來シ親シク當局者ニ就キ博覽會開設ノ事ヲ吹聴シ其贊助ヲ求メ且ツ當時開會中ナリシ第三回内國勸業博覽會ノタメニ出京シタル全國各府縣ノ實業家ヲ東京『ホテル』ニ招請シテ大ニ出品ヲ勸誘シタリ」

とあるように、同博覽會の用務で来日していたのであった。参会者は帝國博物館総長九鬼隆一、文部次官辻新次、加納夏雄をはじめとする美術工芸家たち、黒川真頼、山田美妙その他の学者や文士、餐庭簗村・森田思軒・宮崎三昧・藤田隆三郎その他根岸党の人々であった。定かではないが本校の教官はこぞって出席したのではないかと思われる。

盃流しの宴というのは紀国屋文左衛門の墨田川船遊びに倣ったもので、十艘の舟を浮かべ、これに客や「美姫」が分乗して酒宴を催し、そのさ中、上流より小川松民の手に成る蒔絵の大盃を次々と流して客に竿で掬い取らせ、それでまた汲み交すという趣向で、岡倉はこの種の会を本校の内外でよく催した。

第三節 明治二十四年

東京美術學校第三年報 明治二十四年分

學規

本條ハ登載スヘキ件ナシ

慶務

本年一月八日本校授業始メニ付花ノ式ヲ執行ス

同日午前八時會議室ノ中央ニ

天皇 皇后兩陛下ノ御影ヲ奉掲シ卓上ニ御宸署ノ勅語ヲ奉置シ教員事務員及生徒等一同制定ノ服ヲ着シ式場ニ入り順次奉拜シ次テ校長代理教授文學博士黒川真頼勅語ヲ奉讀シ右畢テ生徒ニ祝意ヲ表スル繪畫及彫刻ヲ作ラシメ

兩陛下御影前ノ卓上ニ供置奉拜シテ退場セリ

昨年十二月ヨリ一月二十五日ニ至ル撰科生徒ヲ募集シ二十七日ヨリ

二月十六日ニ至ル入學試験ヲ行ヒ二十日合格者十人ニ入學ヲ許ス

二月十一日紀元節ニ付 御影奉拜式ヲ執行ス 二十日公爵三條内大臣薨去ニ付臨時休業ス 二十五日故三條内大臣國葬ニ付臨時休業シ

職員及生徒等一同制服ヲ着シ文部省通用門前ニ整列シテ吊意ヲ表ス（也）三月二十四日第一高等中學校教授本校囑托教員小島憲之へ報酬トシテ金百五拾圓贈付ス